



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/31 (月)	+ 700	+ 4,500	+ 5,200		国債補完供給 社債等買入 500 ▲ 600		日：小売売上高（7月） 鉱工業生産（7月） 米：G20財務相・中央銀行総裁会議
9/1 (火)	トン	▲ 34,000	▲ 34,000	国債発行償還（2年）			日：製造業PMI（8月） 米：製造業PMI（8月） 欧：ユーロ圏CPI（8月）
9/2 (水)	トン	▲ 43,000	▲ 43,000	国債発行（10年） 法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税交付金	共通担保 ▲ 8,000		日：日銀の高田審議委員が札幌市金融経済懇談会で講演
9/3 (木)	トン	+ 4,000	+ 4,000				米：ウォラールFRB理事が「ロイターネクスト」 イベントで討論会に参加 サービス業・総合PMI（8月） 貿易収支（7月） 欧：ユーロ圏サービス業・総合PMI（8月）
9/4 (金)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000	国債発行（30年）			米：雇用統計（8月） 欧：ユーロ圏小売売上高（7月）

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆2,200億円増加の425兆1,300億円から始まった。その後、国債発行等の要因により増減し、28日は424兆3,700億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物0.981%～1.15%のレンジ、1M～3M物1.095%～1.400%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では31日に小売売上高（7月）の公表、9月2日に日銀の高田審議委員が札幌市金融経済懇談会で講演、海外では31日にG20財務相・中央銀行総裁会議の開催、9月1日にユーロ圏CPI（8月）の公表、9月4日に米国雇用統計（8月）の公表などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ（%）
O/N	0.950 ～ 0.978
1M	1.15 ～ 1.30
2M	1.25 ～ 1.40
3M	1.30 ～ 1.45
6M	1.50 ～ 1.75

<レボ>

足許GCは週を通して1.000%～1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～487回債、5年180～187回債、10年361～372、379～383回債、20年194～197回債、30年87～91回債などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ（%）
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.3～1.4台

<CP>

今週の入札発行総額は3兆5,589億円で、週間償還額の3兆4,960億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆2,981億円から、8月27日時点で25兆4,944億円へと増加した。発行市場では、不動産業・食糧品・機械をはじめとする幅広い業種で、先週に引き続き大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.2%台、3ヶ月物で1.2%台から1.4%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆2,400億円となっている。発行市場は、月初につき発行案件は少なく、落ち着いたマーケットが予想される。発行レートについては、日本銀行による利上げ継続姿勢が示されていることから、水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

28日の3M（第1403回債）の入札は、最高落札利回り1.0858%（前回債1.0900%）、平均落札利回り1.0794%（前回債1.0816%）となった。

来週の入札は9月4日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。